

## 21 花隈城天守閣跡／福德寺

神戸市中央区花隈町15

- ▶ 花隈公園から北西方面に福德寺がありますが、門前に「花隈城天守閣之趾」の碑があります。



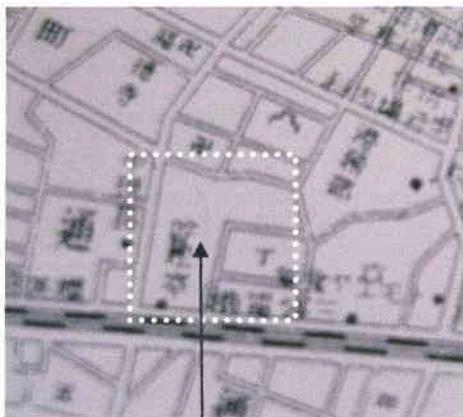
## 22 初代兵庫県知事 伊藤博文寓居跡

神戸市中央区花隈町3

- ▶ 慶応4年(1868)1月11日神戸事件が起り、同年1月15日(1868年2月5日)、徳川幕府に代わり明治新政府樹立後初めて外国との会見が、神戸税関の前進である「運上所」にて行われました。新政府の代表は、公家の東久世通禧(ひがしくぜ・みちとみ)を始めとして岩下佐次右衛門(薩摩)、寺島陶蔵(薩摩)、陸奥陽之助(土佐海援隊)、伊藤俊輔(長州)、吉井幸輔(薩摩)、片野十郎(長州)の6名が同席しました。2月には兵庫裁判所と改称し、東久世は総督に就任。伊藤俊輔は外国事務局判事に任命されました。5月17日には兵庫県庁と改称され、初代兵庫県知事に伊藤俊輔(博文)が任命されました。まだ27歳という若さでの就任です。馬にまたがってあちらこちら駆け巡り「坊主奉行」と呼ばれたそうです。庶民は「この若僧に何ができるか」という眼で見えていたようです。

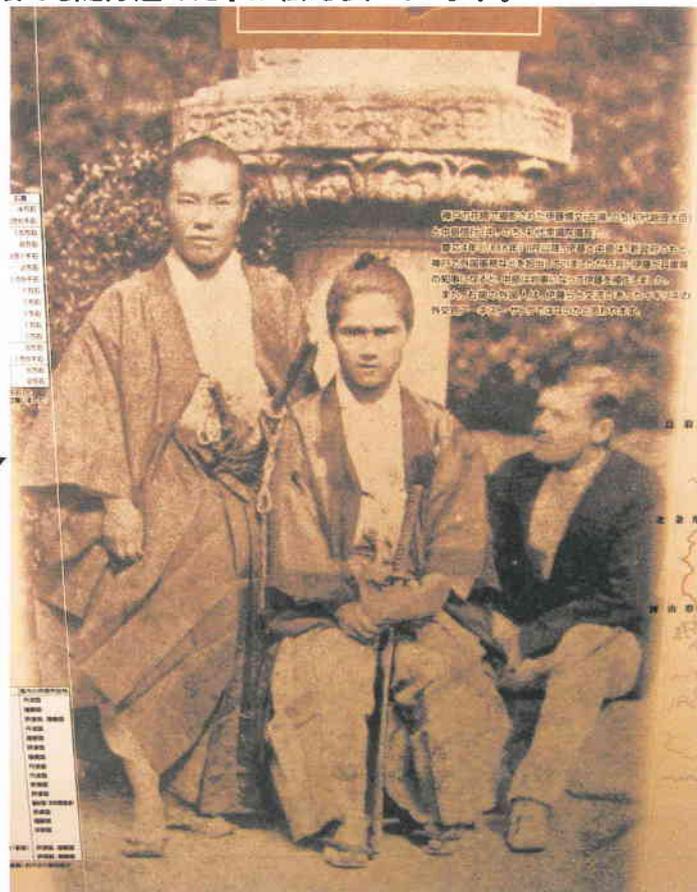
伊藤は、二ツ茶屋村の庄屋 橋本藤左衛門の別邸である橋本花壇を仮住居としました。橋本花壇の所在地は、旧住居表示では神戸市生田区長狭通6-78、現在は中央区花隈町3に該当します。明治2年(1869)7月、伊藤が知事を辞し神戸を去ることになりました。寓居跡地にて「吟松亭」という料亭を伊藤の妹が始めたそうです。

なお、伊藤は豪遊で有名で、この花隈界限でも随分遊んだ事が伝えられています。



吟松亭

伊藤博文寓居先で撮影された写真  
左が伊藤博文、中央は中島作太郎(信行)  
中島は伊藤知事を補佐する判事でした。





現在の伊藤博文寓居跡

吟松亭の遺跡

吟松亭は昭和期まで存続していましたが、戦災で焼失してしまい復興はされていません。  
吟松亭にあった燈籠が現在も残っています。神戸市北区星和台の料亭の玄関前に見ることができます。  
※前頁での伊藤邸での写真にある燈籠とは別のようです。



「神戸又新(ゆうしん)日報」明治36年(1903)11月26日の記事より  
「(前文省略)同亭(吟松亭)の玄関の板の中央を貫き、更に屋根を貫いて  
居る松は後に植え付けたもので「吟松」といふ名には更に関係が深いと  
云って宜しい(以下省略)」



吟松亭の写生

## 23 小泉八雲の旧居跡碑

神戸市中央区下山手通6-3-28

- ▶ 兵庫県立労働センター玄関前に、小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)(1850~1904)の旧居跡碑が建てられています。  
ラフカディオ・ハーンは、明治23年(1890)来日し、松江中学校を経て熊本五高で英語教師をし、翌年には元松江藩士の娘 小泉セツと結婚しました。  
明治27年神戸に来て、英字新聞「神戸クロニクル」の記者となりますが、健康を害してすぐ退社しています。  
しかし、ハーンは約2年間この地で執筆活動をしました。この時期の代表作に「日本人の微笑」があります。明治29年(1896)には、東京大学で英文学を講じ、また、日本文化の根底にある霊的な部分、さらには国境を越えた文化の本質を深く理解し、「怪談」などの多くの作品を著しました。



## 24 ジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)の記念碑

神戸市中央区下山手通6-2

- ▶ 新聞の父といわれ海外新聞(民間邦字新聞の最初・外国の広告を転載)創始者として有名なジョセフ・ヒコは、明治8年(1875)から明治21年(1888)まで、神戸で製茶輸出入貿易業に携わりました。この地に自邸を建て、東京に移るまで暮らした場所です。昨年イベントでは兵庫区の能福寺にある「ジョセフ・ヒコの英文碑」をご案内しました。



### <ジョセフ・ヒコ(浜田彦蔵)>

嘉永3年(1850)10月、摂津国大石村(今の神戸市灘区大石)の松屋八三郎が所有する江戸通いの樽廻船「栄力丸」が、江戸からの帰路、太平洋の駿河国(今の静岡県)沖の遠州灘にて漂流状態となり、52日後に日本最南東端の南鳥島沖にてアメリカの捕鯨船「オークランド号」に救助され、13歳の播磨国生まれの彦太郎(後のジョセフ・ヒコ、浜田彦蔵)、岩蔵・慎兵衛ら18人(後、1人死亡)の船員達がサンドウィッチ諸島(今のハワイ諸島)経由で一路、アメリカ大陸を目指して搬送されることとなります。

彦太郎は加古郡播磨町古宮に生まれ、江戸見物もかねて「住吉丸」に便乗して出発、伊勢国・熊野(今の三重県熊野市)で乗り換えた「栄力丸」が江戸からの帰路に嵐で漂流しました。

彦太郎はアメリカ人から「ヒコゾ」「ヒコ」などと呼ばれ、彼は呼ばれるまま素直に「彦蔵」と名乗るようになりました。

キリスト教徒として洗礼まで受け、洗礼名を「ジョセフ・ヒコ」といいました。

ジョセフ・ヒコはアメリカ大統領に会い、大統領に会った最初の日本人となりました。

帰国したいという意志が強く、キリスト教徒となったジョセフ・ヒコは、アメリカに帰化しアメリカ人として帰国する道を選択します。その許可は驚くほど簡単に下りました。

こうして、彼はアメリカ市民権を初めて取得した日本人となりました。安政6年(1859)帰国を果たしましたが、命の危険を感じアメリカに舞い戻ります。再度日本に帰国した時、外国人向けの英字新聞を日本語に訳して発行することを思いつき、この試みが日本の新聞の発祥であるとされます。

明治30年(1897)61歳で波乱の人生に幕を閉じました。

25 関帝廟(かんていびょう)

神戸市中央区中山手通7-53



26 第二次長州征伐幕府軍駐屯の地/八王寺

神戸市兵庫区羽板通2-1

八王寺に屯所を設け、前線の状況を窺いました。  
しかし、入手する情報は不利なものばかりで、  
軍の統率が乱れ、町民に対して兵が暴徒化  
しました。

早稲田町の記録(八王寺に屯所を設け、前線の状況を窺いました。)

